

[説明資料(提出ファイル)] 発明・工夫作品コンテスト 製作の動機または目的, 利用方法, 作品自体やその製作過程で工夫したことを, 文章, 写真, 図などで説明。この用紙1枚に記入し, PDFに変換した後, web提出フォームにて提出する。

個人・グループ名	九州産業大学地域貢献実践ゼミナール	大学名	九州産業大学
作品名	ガイドボード戦隊「黒板ロボ」(糸島国際芸術祭の案内板)	人数	9名



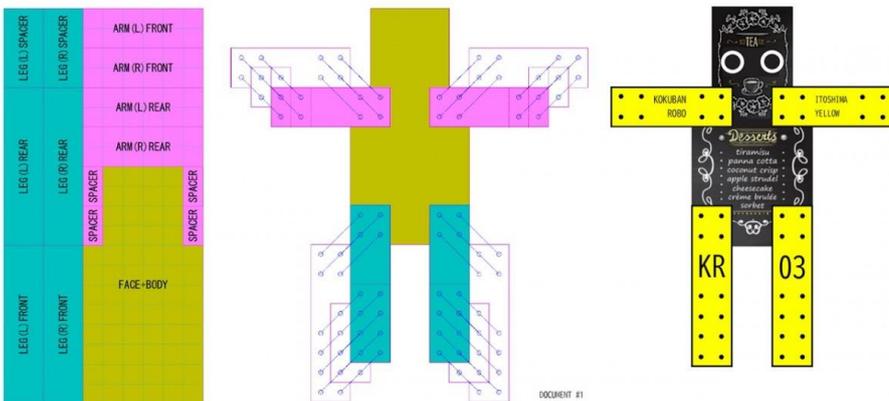
設置したガイドボード戦隊「黒板ロボ」(糸島国際芸術祭の案内板)の作品例

**製作の動機または目的** 私たちは2021年10月、福岡県糸島市二丈で開催された糸島国際芸術祭 <https://www.ito-artsfarm.com/> に、アーティスト兼スタッフとして参画した。芸術祭のテーマは「身体尺度(ヒューマン・スケール)」。『黒板ロボ』は、サブロクパンのシナベニヤ1枚から、無駄なく1体が切り出される、ロボット型黒板仕様の案内板である。サブロクパンは3尺×6尺(910mm×1820mm)の板のことであり、畳一帖すなわち「大人ひとりが寝た時に必要なスペース」とされ、テーマ「身体尺度」とも合致する。会場エリア ([https://goo.gl/maps/aCcoq\\_pdrzjXLogpM6/](https://goo.gl/maps/aCcoq_pdrzjXLogpM6/)) JR筑肥線一貴山駅・筑前深江駅間。東西約2.5km、南北約2km。田畑約7割、山林約2割住宅地約1割。国道202号線が横断。)に点在する25のアートやパフォーマンスの鑑賞を支援し、かつエリアの回遊性を促すことを目的としたガイドボード戦隊として、Yellow・Lime・Green・Aqua・Blue・Purple・Pink・Red・Orange・Cream・Brown・Black・Whiteの13体(色)を製作した。丁寧で分かりやすい情報を見てもらうだけでなく、愛らしくユニークなデザインを楽しんでもらう狙いもある。

**利用方法** 「黒板ロボ」の腕部と脚部の塗料は各々色が異なる。会場エリアは田畑が多い。景観に変化が乏しく目印になるものが少ない。そのため、あるアートやパフォーマンスにアクセスするには「黒板ロボ」のRed→Blue→Greenを辿ればよいなどと案内する実験を行い、概ね適切に案内できる。「黒板ロボ」の頭部と胴部には黒板塗料を使い、主催者がチョークでアートやパフォーマンスの場所や内容等の情報を記す案内板となる。また来場者がその感想を自由に書き込むこともできるので、主催者や地元の人、そして来場者の交流・情報共有のための伝言板ともなる。脚部にステッカーを貼り00・01…11・12と番号を振り分けることにより、「黒板ロボ」の色や数字を探してコンプリート(制覇)する楽しみが持てる。これにより会場エリアの回遊性を促す。これにより会場エリアの回遊性を促す。また「黒板ロボ」の頭部の大きな目は、眼差しを向けられた来場者が見返すことにより、案内や感想等の情報を読む機会が向上する。

**作品自体やその製作過程で工夫したこと** 塗装はムラやダマが出ないように、素早くきれいに塗ることを意識し、均一に2度塗りした。木目に沿って塗装し、木の質感を残した。電動ドリルのビス接合では、垂直に力を入れることを意識した。板目から亀裂が生じないように力の入れ方を調整した。組み立てる難しさや楽しさを感じた。デザイン性からビスの位置は統一した。芸術祭出展のアーティストからは、「黒板ロボ」のおかげで会場エリアの地理的な一体感がとてもクリエイティブな形で見ることができたとの謝意が伝えられた。

**作品製作中の記録動画** <http://isami.biz/>



設計図(サブロクパンのシナベニヤ1枚から、無駄なく1体が切り出される)



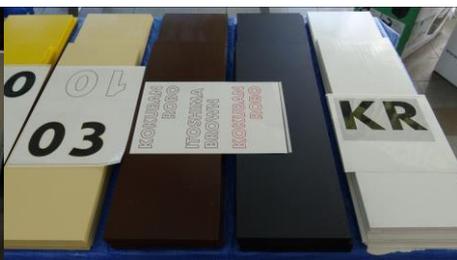
頭部・胴部・腕部・脚部の仮置



腕部・脚部への塗装(13色)



頭部・胴部への塗装(黒板塗料)



番号・名前等の防水ステッカーを貼付



ビスによる頭部・胴部・腕部・脚部の接合



頭部・胴部にチョークで情報記入